

(参考) 震災伝承に関する活動の現況

1. 行政主体による伝承

(1) 震災遺構の保存・活用

行政が主体となり、被災した建造物の保存、活用を計画している遺構等を下表に示す。

施設名	場所	保存・活用方法	概要
旧門脇小学校校舎	門脇4丁目	一部または部分保存し、隣接する復興祈念公園と日和山との連続性を保った震災伝承エリアの主要施設として活用。	津波被害の痕跡に加え、津波火災の痕跡を残す唯一の施設。
大川小学校旧校舎	釜谷	全体保存し、慰霊・追悼の場、防災教育の場として整備。	津波により児童、教職員 84 名が死亡・行方不明となる。

(2) メモリアルパークの整備

国、宮城県、石巻市が主体となり、甚大な被害を受けた南浜地区において、石巻南浜津波復興祈念公園の計画が進められている。

(公園の概要)

- 約 38.8ha を県営・市営公園として整備することとし、県営公園の中心部に国営追悼・祈念施設（仮称）を国が整備。
- 公園のデザインとして、市街化される前の風景である湿地や樹林地を復元し、震災前に街と人の生活があったことを示す街路網を残すとともに、その上に追悼の広場を中心にビジターセンターとなる中核的施設、避難築山等を配置する。

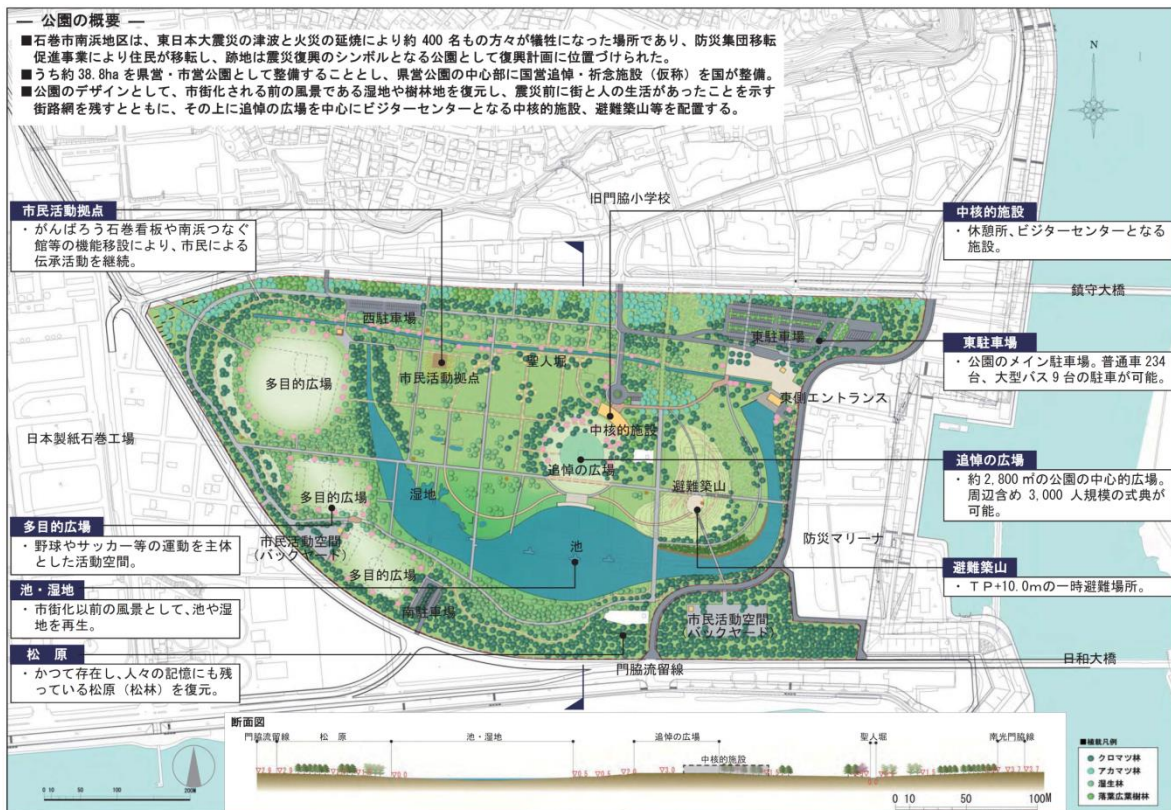


図 石巻南浜津波復興祈念公園の計画図

### (3) 石巻市復興まちづくり情報交流館

石巻市では、復興のまちづくりや地域の取り組みに関する情報、東日本大震災の記録と記憶の発信（展示）と、被災者同士や被災者と来訪者の交流や懇談の場の創出を目的として、石巻市復興まちづくり情報交流館を整備している。

中心市街地に設置された中央館の他、牡鹿、雄勝、北上、河北の各地区に計画されており、開設期間はいずれも2017年度までを想定している。

表 石巻市復興まちづくり情報交流館の概要

施設名	場所	開設年月	概要
中央館	中央2丁目	2015年3月	【概要】 ・プレハブ平屋建(136㎡) 【主な施設】 ・情報展示スペース ・交流スペース
牡鹿館	鮎川浜湊川	2016年3月	【概要】 ・軽量鉄骨造平屋建(124.41㎡) 【主な施設】 ・展示・交流スペース ・交流テラス
雄勝館	雄勝町上雄勝	2016年6月	【概要】 ・トレーラーハウス(103.17㎡) 【主な施設】 ・インフォメーションスペース ・情報展示スペース ・交流スペース ・交流テラス
北上館	北上町十三浜	2016年3月	【概要】 ・軽量鉄骨造平屋建(129.42㎡) 【主な施設】 ・展示・交流スペース ・交流テラス
河北館	小船越二子	2016年2月	道の駅「上品の郷」内に開設

### (4) 慰霊碑・モニュメント等の設置

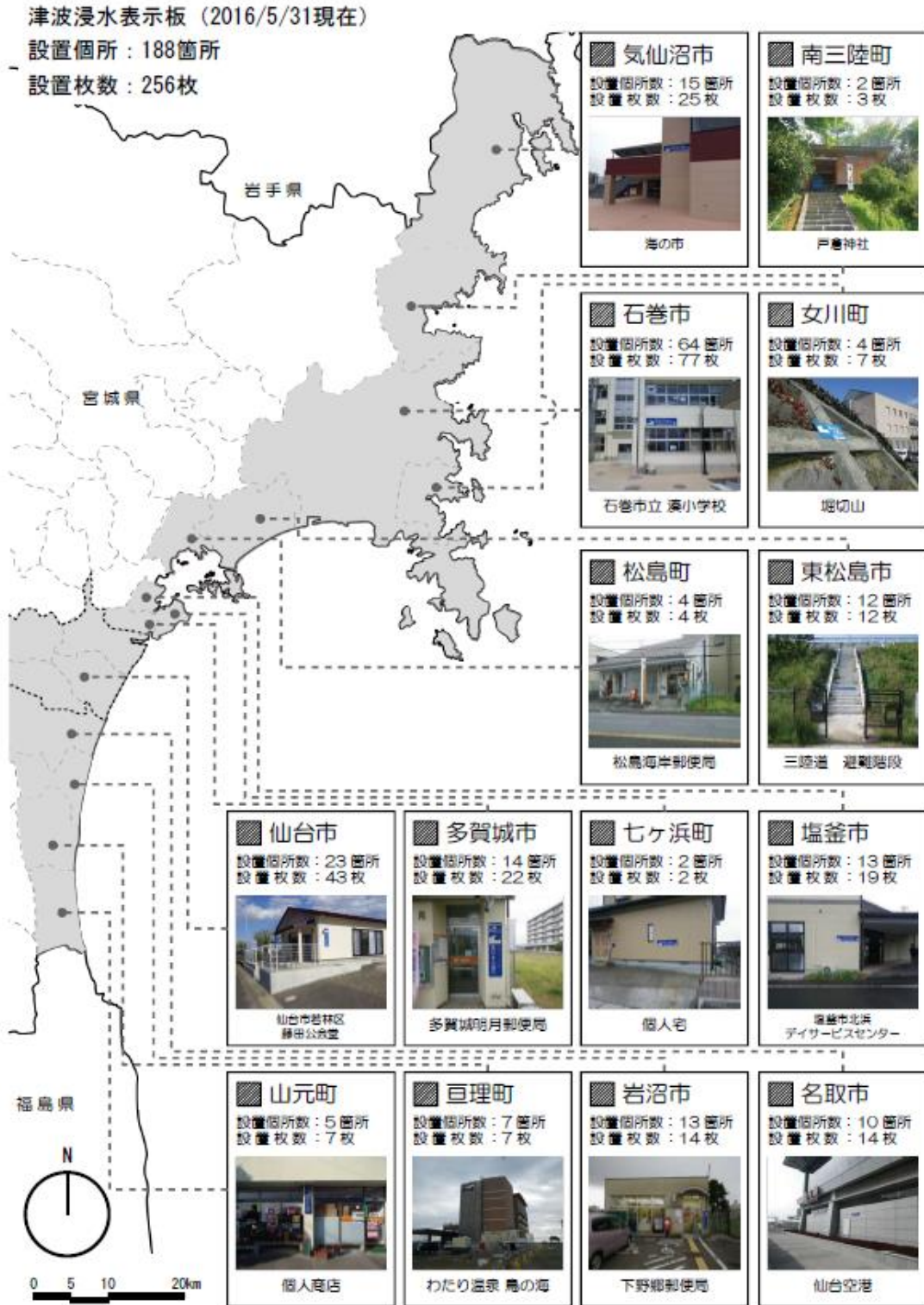
震災復興基本計画実施計画において、石巻市では重点プロジェクトの一つである未来への伝承プロジェクトとして、慰霊碑（モニュメント）建立事業を位置付けている。

### (5) 津波浸水表示板

津波の浸水区域や浸水高さを現地に標識等で表示することにより、実物大のハザードマップとして住民の避難の備えを促し、防災啓発を図っていくことができる。

また地域住民だけでなく、観光客等にも注意喚起が行え、さらに、東日本大震災の津波の記憶を風化させず後世に伝える標にもなる。

宮城県による津波浸水表示板の設置状況を以下に示す。(2016/5/31 現在)



出典：3.11 伝承減災プロジェクト 津波浸水表示板の設置 (宮城県 HP)

## (6) 教育・学習

石巻教育委員会では、震災を教訓に、地域の特性を踏まえた実践的な防災教育の充実と児童、生徒の防災対応能力を育成することを目的として、防災教育副読本「未来へつなぐ」を作成している。

副読本は小学校1、2、3年版、小学校4、5、6年版、中学生版の3種類で、いずれも「備える」「知る」「震災のとき」「応援ありがとう」「未来へつなぐ」の5章からなっている。各小中学校では学級活動や避難訓練の事前・事後指導の資料などに活用している。



防災教育副読本「未来へつなぐ」

## (7) 避難訓練などの防災に関する活動

石巻市では、地域の防災力を高めるため、地域住民参加による総合防災訓練を実施している。

表 総合防災訓練の実施状況

年度	実施日
平成24年度	平成24年7月8日(日)
平成25年度	平成25年10月6日(日)
平成26年度	平成26年10月19日(日)
平成27年度	平成27年11月15日(日)

<参加者数の推移>



図 平成24～26年度の参加状況

また、石巻市では町内会や行政区などを母体とし、自助・共助の精神で防災活動を行う組織（自主防災組織）の設置を推奨している。

### 【自主防災組織の主な活動】

- ・ 平常時：防災啓発や防災訓練、地域防災マップの作成など
- ・ 災害時：地域住民の安否確認や出火防止、初期消火など

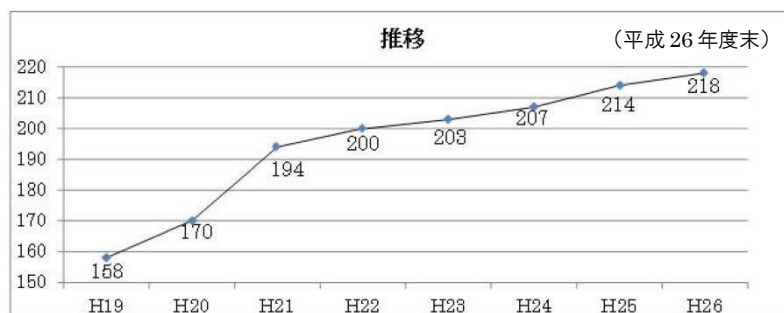


図 自主防災組織結成の推移（出典：石巻市自主防災だより第 1 号）

### (8) 追悼、復興に関する式典等

石巻市では、震災の犠牲者に対する追悼式典のほか、復興を祈念するイベントを開催している。

名称	場所	開催日	主催	概要
東日本大震災石巻市追悼式	河北総合センター (ビッグバン)	3月11日	石巻市	震災の犠牲になられた方々に対し追悼の意を捧げるとともに、石巻の復興、再生、発展を祈念する。祭壇および献花台は市役所他、各総合支所管内の会場に設置される。
石巻復興マラソン	石巻市総合運動公園	2015年 6月21日 (第1回)	石巻市	「被災地」石巻の使命として、復興への歩みを止めず、震災を風化させず、日本国内から海外まで、スポーツを通じて発信しつづけることを開催趣旨とする。2015年第1回の参加者は約3500人。

### (9) ITを活用した記録・アーカイブ

行政主体で管理・運営している、ITを活用したデジタルアーカイブ等を下表に示す。

名称	運営主体	概要
東日本大震災アーカイブ (ひなぎく)	国立国会 図書館	東日本大震災に関する音声・動画、写真、ウェブ情報等のデジタルデータや、関連する文献情報を一元的に検索・活用できるポータルサイト。 東日本大震災に関するあらゆる記録・教訓を次の世代へ伝え、被災地の復旧・復興事業、今後の防災・減災対策に役立てることを目的とする。
震災伝承館	国土交通省 東北地方整備局	東日本大震災の被災経験・教訓を活かすための記録として整備局および被災した市町村等から提供された写真・映像等を掲載。 ウェブサイト上の写真、映像等の各種資料は二次利用を想定しており、自由に資料へ添付等することも可能。
東日本大震災アーカイブ宮城 ～未来へと伝える記憶と記録～	宮城県	東日本大震災に関する記憶の風化を防ぐとともに、防災・減災対策や防災教育等に関する効果的な活用を図ることを目的として、宮城県内の東日本大震災の記録を収集、デジタル化し公開。 行政資料のほか、写真、動画等も収録。
東日本大震災に関する情報提供	国土交通省 国土地理院	国土地理院は東北地方太平洋沖地震発生直後から空中写真撮影や地殻変動の監視等を実施し、救助救援および復旧復興活動を支援してきたが、発災から5年を機に、これまでの対応を取りまとめた。 地震の全体像を捉え、必要な範囲の測量成果を改正することで、復興事業の土台を構築。最近の地殻変動の様子は地震予知連絡会や地震調査委員会にも情報を提供。
東日本大震災アーカイブ 宮城(石巻市)	石巻市	「東日本大震災アーカイブ宮城」のサイトに石巻市で収集した資料を提供、公開される。
震災文庫	宮城県図書館	図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」の呼びかけ図書館として、東日本大震災に関する資料全般を広く収集し、今後永く保存することにより、震災で得た教訓を後世に引き継ぐことを目的とする。 資料の一部はデジタル化し「東日本大震災アーカイブ宮城」に提供、公開される。
JAIRO	国立情報学 研究所	大学等の研究機関の電子アーカイブシステムに蓄積された学術情報(学術雑誌論文、学位論文、研究紀要、研究報告書等)を横断検索するシステム。 東日本第震災に関する情報は「東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)」からも検索閲覧可能。
J-STAGE	科学技術 振興機構	日本国内の科学技術情報のデータベース。 東日本第震災に関する情報は「東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)」からも検索閲覧可能。

## 2. 民間・学術機関主体による伝承

### (1) 震災遺構の保存・活用

民間が主体となり、被災した建造物の保存、活用を計画している遺構等を下表に示す。

施設名	場所	保存・活用方法	概要
旧東北実業銀行 石巻支店	中央3丁目	建物の案内板を設置 予定。	1925年築。 辰野金吾と共に東京駅の設計を手 掛けた葛西萬司の設計と判明。建築 様式は近世復興式であり、文化財的 価値の高い歴史的建造物として注目 が集まる。
本間家土蔵	門脇2丁目	石巻震災土蔵メモリアル 基金を立ち上げ、募 金を基に修復し、展示 施設として2014年4 月から一般公開。	1897年築。 廻船問屋として栄えた旧家武山家 (現本間家)が明治三陸津波の翌年 に建造。

### (2) 民間主体による伝承施設

施設名	場所	開設年月	運営主体	概要
つなぐ館	中央2丁目	2014年4月 (移転前)	みらいサポート 石巻	震災の記憶を後世へとつ なぐ情報ステーション。市 街地の模型等を展示。
南浜つなぐ館	門脇町5丁目	2015年11月	みらいサポート 石巻	門脇・南浜地区の変遷を 伝える。 震災前の復元模型や復興 祈念公園の計画を展示。
絆の駅 石巻ニューゼ	中央2丁目	2012年11月	石巻日日新聞	震災直後に発行した石巻 日日新聞号外や石巻市、 東松島市、女川町の写真 を公開。
本間家土蔵	門脇2丁目	2014年4月	石巻ローンテニ スクラブ	倒壊を免れた土蔵(1897 年築)を展示室として活 用。石巻の歴史や被災体 験に関する資料を展示。
がんばろう!石巻 看板	門脇町5丁目	2011年4月	がんばろう!石巻 の会	震災後1ヵ月の日に設置 された看板。門脇・南浜地 区における追悼の場となっ ている。南浜つなぐ館が 併設。

### (3) 語り部、被災地ガイド

石巻を拠点として語り部活動、被災地ガイドを行っている主な団体・個人は以下の通り。

(情報提供：公益社団法人みらいサポート)

#### ■石巻ビジターズ産業ネットワーク「震災伝承部会」活動概要一覧より抜粋 (2015/11/16)

活動団体・個人	活動エリア	スタッフ人数	これまでの受入れ実績
石巻観光ボランティア協会	女川 石巻 管内	24名(会員) 10名(ガイド)	H23年度 3,349名
			H24年度 28,182名
			H25年度 25,134名
			H26年度 20,442名
公益社団法人 みらいサポート石巻	石巻	3名(担当者) 10名(語り部)	H23年度 348名
			H24年度 4,115名
			H25年度 4,643名
			H26年度 5,032名
公益社団法人 防災プロジェクト	東松島 石巻 女川	1名 +個人語り部	H23年度 -
			H24年度 140名
			H25年度 2,376名
			H26年度 2,506名
ホテルニューさか井	石巻中心部 牡鹿半島	3名	H23年度 -
			H24年度 -
			H25年度 1,500名
			H26年度 600名
三陸河北新報社 (石巻かほく)	石巻 東松島 女川	数名	H23年度 約100名
			H24年度 約100名
			H25年度 約100名
			H26年度 約100名
がんばろう！石巻の会	門脇南浜中心	10名	
ぐるぐる応援隊	石巻	5名	
個人	旧石巻市牡鹿 女川	1名	H23年度 -
			H24年度 -
			H25年度 -
			H26年度 2,242名
個人	石巻市内 女川町		
個人	石巻市内 女川町 一部東松島		



■「石巻地方語り部・被災地ガイド連携検討会」活動概要一覧より抜粋（2015/11/14）

活動団体・個人	活動エリア	スタッフ人数	これまでの受入れ実績
石巻アーカイブプロジェクト	石巻地方	7名	
一般社団法人ISHINOMAKI 2.0	石巻市 (中央～門脇)	8名 (現地メンバー)	
女川町観光協会	女川町内	4名(職員) 7名(ガイド)	
一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター	石巻市女川町	7名(専従職員) 5～10名 (ボランティア)	
株式会社 街づくりまんぼう	石巻中心市街地	4～5名	
株式会社 ヤマサコウショウ	石巻魚市場周辺 雲雀野海岸周辺	7名	
復興大学 石巻センター	石巻市東松島市 (野蒜・宮戸地区)	1名	
個人		1名	
個人	石巻市 女川町 東松島市	1名	